

村岡中学校の部活動の在り方に関する方針

1. 部活動のねらい

村岡中学校の部活動は、生徒の自主的、自発的な参加によって行われる。部活動は、スポーツや文化、科学等に親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感を涵養し、高い教育的意義を持つものである。本校では、大会やコンクールの結果や成績等を追求するだけでなく、日常的な活動の中で、スポーツや文化的な活動に親しむ基礎を培うことや生徒の心身の調和のとれた発達を促すことをねらいとする。

2. 部活動の在り方

村岡中学校の部活動は、「藤沢市の部活動の在り方に関する方針」（2019年3月策定）に則り、生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底した、安全で安心な活動を行う。

3. 本年度設置する部活動について

本年度設置する部活動については、次のとおりである。

- 運動部活動：軟式野球部、陸上競技部、女子バレーボール部、
男子バレーボール部、サッカー部、女子ソフトテニス部、
卓球部、バドミントン部、バスケットボール部、
女子ソフトボール部、剣道部
- 文化部活動：科学部、美術部、吹奏楽部、家庭部

4. 活動にあたって

(1) 指導計画について

村岡中学校の部活動では、顧問が年度のはじめに、指導目標、年間活動計画を作成し、当該月の前までに、月間活動計画を作成し、校長に提出する。活動計画等に変更が生じた場合は、その都度校長に報告する。

(2) 部活動の休養日の設定について

課業期間は、週当たり2日以上休養日を設ける。平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とする。課業期間中の水曜日放課後の部活動は行わない。

また、長期休業中は、週2日（平日1日、土曜日及び日曜日の1日）以上の休養日を設定する。

なお、「学校業務停止期間」（8月中旬）においては、原則として、部活動は行わない。

(3) 活動時間について

1日の活動時間は、準備・片付け・休憩時間・ミーティングや移動時間を除き、平日は2時間程度、学校休業日は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。ただし、公式戦、コンクールや練習試合等においては、3時間を超えて活動することがある。

(4) 熱中症予防について

暑い時期の活動においては、熱中症予防のため、熱中症予防運動指針[※]に則り行う。

※熱中症予防運動指針

実際にどの程度の環境温度でどのように運動したらよいかを具体的に示したものです。環境温度の設定は湿球黒球温度（WBGT）で行いますが、おおよそ相当する湿球温度，乾球温度も示しています。

熱中症予防運動指針

WBGT ℃	湿球温度 ℃	乾球温度 ℃	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
31	27	35	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分を補給する。暑さに弱い人 [※] は運動を軽減または中止。
28	24	31	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
25	21	28	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
21	18	24	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

1) 環境条件の評価にはWBGT(暑さ指数とも言われる)の使用が望ましい。

2) 乾球温度(気温)を用いる場合には、湿度に注意する。
湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指針を適用する。

3) 熱中症の発症のリスクは個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。
運動指針は平均的な目安であり、スポーツ現場では個人差や競技特性に配慮する。

※暑さに弱い人: 体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など。